

患者さんへ

「頭頸部癌シスプラチン併用化学放射線療法における粘膜炎発現と オピオイド鎮痛薬の使用状況に関する調査研究」について

神戸低侵襲がん医療センター（以下当院とします）薬剤部では、頭頸部癌に対する治療法の一として、シスプラチン併用化学放射線治療（以下本治療とします）を実施された患者さんを対象に、放射線治療によっておこった粘膜炎による痛みに対して使用した麻薬性鎮痛薬が治療後のいつから減量され、それがどのような理由で行われたのかを調査し、どの時期に鎮痛薬を減量すべきかを検討しております。また、合わせて粘膜炎が出現した時期とそれが強くなった時期、また麻薬性鎮痛薬とその他の鎮痛薬が始まった時期を調査し、その関係性を調べる予定です。本研究の成果により、本治療で粘膜炎の痛みで苦しむ患者さんへの痛み止めの使い方を検討し役立てたいと考えております。この研究では、本治療法を選択された20歳以上の患者さんに対して放射線治療が終了してから麻薬性鎮痛薬の減量を時期と理由について検証するものであり、新規に患者さんへお願いする事はありません。この調査研究についてご質問等ございましたら、最後に記載しております【問い合わせ窓口】までご連絡ください。

【研究概要】

頭頸部癌の化学放射線治療により起こる粘膜炎の疼痛に対して、麻薬性鎮痛薬を使うことの有用性は報告されておりますが、治療後に粘膜炎の改善に伴い、疼痛が軽減した時の減量や中止するべき時期に関しては、報告が少ないため、経験的に行われているのが現状です。

そこで、本研究ではシスプラチン併用の化学放射線治療を行い、出現した粘膜炎の疼痛に対して、麻薬性鎮痛薬を使用した患者さんに関して、放射線治療終了後に麻薬性鎮痛薬が減量された時期とその理由について調査し、本治療終了後の麻薬性鎮痛薬の減量と中止時期を検証するものです。また、治療が始まってから粘膜炎が出現した時期とそれが強くなった時期、一方、麻薬性鎮痛薬とその他の鎮痛薬が始まった時期を調査し、その関係性を検証し、本治療を行う患者さんの痛みのコントロールに役立てたいと考えております。

本調査は、すでに実施された過去の記録を調査、検証するものであり、新規に患者さんに何かをお願いする事はありません。

[取り扱うデータ]

対象となった患者さんの、治療終了後の麻薬鎮痛薬が減量または中止された時期と理由、治療開始後から粘膜炎が発現した時期とその程度が強くなった時期、麻薬性鎮痛薬またはそれ以外の鎮痛薬が初めて開始された時期と投与量などを電子カルテから抽出して解析いたします。

[個人情報保護の方法]

個人情報、データ等は、正確に尚且つ検証が可能なように記録・保管します。登録患者の同定や照会は、主に登録時に定められた症例登録番号を用いて行われ、患者名など第三者が直接患者を識別できる情報が本試験のデータベースに登録されることはありません。

[研究参加による利益・不利益]

利益・・・本調査に参加いただいた患者さん個人には特に利益と考えられるようなことはありませんが、本研究の成果により、今後本治療を行うがん患者がより安全に治療を受けることが出来る可能性があります。

不利益・・・診療記録からのデータ抽出のみのため、特にありません。

[研究参加の取り止めについて]

いつでも可能です。参加を辞退されたい場合には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。参加を辞退されることにより、治療やその他の事で不利益になるようなことはありません。

[研究責任者]

神戸低侵襲がん医療センター 薬剤部 金剛 圭佑

連絡先：078-304-4021

[問い合わせ窓口]

神戸低侵襲がん医療センター 薬剤部 金剛 圭佑

連絡先：078-304-4021